

審査の結果の要旨

氏名 目 麻里子

本研究は、介護と仕事の両立が困難であると考えられる認知症をもつ人を働きながら介護する家族員の介護と仕事の両立指標である **Family to work negative spillover** に、介護保険サービスの利用、その利用内容が与える影響を明らかにすることを目的とした。介護保険新規申請時とその3か月後の縦断的質問紙調査を実施し、介護保険給付データを連結した上で、階層的重回帰分析、共分散分析を用いて解析を試みた。

その結果、以下のことが明らかになった。

1. 介護保険サービスの申請時、認知症をもつ人を働きながら介護する家族員の **Family to work negative spillover** は、介護保険サービスの利用なし群と比較し、介護保険サービス利用あり群の方が有意に高かった。
2. 介護保険サービスの利用は、認知症をもつ人を働きながら介護する家族員の **Family to work negative spillover** の変化量と有意に負の関連があった。
3. 介護保険サービスの利用内容ごとの検討では、認知症をもつ人を働きながら介護する家族員の **Family to work negative spillover** と有意な関連を認める利用内容はなかった。

以上、本論文では、介護保険サービスの利用内容が認知症をもつ人を働きながら介護する家族員の **Family to work negative spillover** に与える影響は明らかにならなかったが、介護保険サービスの利用開始により認知症をもつ人を働きながら介護する家族員の **Family to work negative spillover** が低下する可能性が示唆された。本結果は、介護と仕事の両立に対する支援を検討する上で、介護に対する外部資源である介護保険サービスの利用の重要性を示唆する重要な知見であった。本論文は、未だに確立されていない、認知症をもつ人を働きながら介護する家族員の介護と仕事の両立支援に対する効果的な支援を検討する上で重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。